

成功体験を積むこと

校長 吉田 美佳

雨の日が多く、はっきりしない天気が続いていますが、街では赤や白や淡い桃色のつつじの花が満開で、登校、出勤する人の気分を明るくしてくれています。

4月22日（金）1校時に、児童会主催の「こんにちは一年生」がテレビのライブ配信で行われました。新入生が中央林間小学校の仲間になったことをみんなで喜び合うことを目的とした行事で、児童の運営委員が企画・実施しているものです。プログラムには「あっちむいてほい」のゲームも盛り込まれ、1年生の教室からは楽しそうな声が聞こえてきました。子どもたちの充実したようすから、私は改めて学校生活の意味や重要性を感じました。特に、子どもたちの素晴らしい成長ぶりを感じたのは、2年生と6年生の代表児童の発表の姿からです。



2年生は、1年生にアサガオの種をプレゼントしました。2年生代表5名の大きな声で抑揚をつけた話し方から、大切に育ててほしいという気持ちが伝わってきました。新入生代表児童のお礼の言葉も、入学して間もない中でしっかりと伝えていましたが、1年生と2年生の表現力の違いに驚きました。この1年間の成長がとても大きいということが感じ

取れる発表でした。



これが6年生ともなると、目的を理解し、話す言葉も工夫します。「6年生からのメッセージ」として学校生活や行事について紹介する際には、道具等を用意して1年生にもわかりやすく伝えていました。また、運営委員の「あっちむいてほい」のゲームでは、対戦相手として、おばあちゃんや歌うお姉さん、セレブのお嬢様などキャラクターを設定し、少しでも楽しめるよ

うにと工夫するなど、行事を成功させたいという熱意が感じられました。

表現力や企画力・実践力は、学習活動だけでなく、さまざまな人と関わり合うすべての学校生活の経験を通して養われるものです。今回の「こんにちは一年生」に出演した子どもたちは、貴重な体験を一つ積むことができました。こういった成功体験を一つひとつ積み上げていくことは、子どもたちの自信や自己肯定感につながります。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな制限が設けられ、体験的な活動を設定できない状況が続いています。しかし、昨年同様、基本的な感染症防止対策を継続しながら、ICT機器を活用するなど工夫していくことで、人間関係の形成や自己実現を促すような体験活動の充実を図ってまいります。ご家庭でも、学校で体験したことについてお話を聞きましたら、褒めたり励ましたりしながら温かく見守っていただけますようよろしくお願いいたします。